

歴まち都市への誘客に向けた観光連携事業 ～歴史と観光をつなぐ2つの要素～

深谷 有沙

中部地方整備局 建政部 計画管理課 (〒460-8514 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1)

歴史まちづくり行政では、歴史的建造物や町並みなどの歴史的風致を守り、後世に受け継ぐために、様々な取り組みを行っているが、認知度の低さや経済的負担など、いくつかの課題を抱えているのが現状である。

中部地方整備局では、それらの解決の一助として、歴まち都市の周遊を促進するべく、観光連携事業に取り組んでいる。2024年度は「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」と題し、Webページを作成した。歴史的資源を活用した取り組みを観光に結びつけるため、どのように事業を行ったのか、そのポイントとともに報告する。

キーワード 歴史まちづくり，観光連携，「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」，周遊

1. 歴史まちづくりとは

城跡、神社、仏閣などの歴史ある建物の周辺には、昔の風情を残す城下町や伝統的な行事、習慣、その土地ならではの工芸品や料理などが、今なお人々の生活の中に息づいている。歴史まちづくり（以下、歴まち）とは、こうした歴史や伝統が残る環境をまるごと守り、次の世代へとつなげていくため、2008年に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」に基づき、「歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けた自治体（以下、歴まち都市）が行う取り組みのことである。国の認定とは、文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣の認定を指し、認定を受けると、国から補助金等の支援や、法律上の特例措置が受けられる。また、各地方整備局では、管内の歴まち都市を支援する取り組みを行っている。

全国には、2025年3月21日時点で98の歴まち都市がある。その中で、中部地方整備局管内には18都市があり、約20%を占めている。全国で初めて認定を受けた都市の一つである岐阜県高山市は、上記時点で全国唯一の3期計画認定都市である。また、2024年3月に株式会社ナビタイムジャパンより発表された¹⁾訪日外国人滞在数増加率ランキングでは、愛知県犬山市の外国人観光客数が、昨年に比べて約4倍の増加数となり、全国1位となるなど、中部地方には注目度の高い歴まち都市が集積している。

2. 歴史まちづくりが抱える課題

歴史まちづくり法施行から17年が経過し、様々な事業が行われている中で、歴まち都市における古民家の空き家の増加や、地震や火災等の災害対策の必要性の高まりなど、いくつかの課題を抱えているが、本研究では、二つの課題を取り上げる。

(1) 認知度の低さ

中部地方には、歴史的建造物や伝統的な町並みが数多く存在する。しかし、広く一般に知られているものは限られており、身近に暮らしている人でも、実は歴史的価値の高いものだとは知らずに生活している人も多いだろう。こうした認知度の低さは、歴史的建造物の保存、継承を難しくしてしまう。

例えば、建造物の歴史的価値を構成する重要な要素の一つに、地域独自の建築様式やデザインが挙げられることがある。しかし、それらの価値が知られていなければ、維持の負担等から、建造物自体が店舗等に建て替えられたり、除却されてしまうことがある。さらに、保存に向けて改修される場合でも、その歴史的価値が正しく理解されず、コストや利便性が優先されてしまい、その地域にそぐわないデザインに変えられてしまうことがある。これでは、建造物自体は保存されたとしても、本来の歴史的価値は損なわれ、歴史的な町並みの滅失につながってしまう。建造物の歴史的価値を正確に把握し、理解することは、歴史的建造物の保全につなげることができる。

と考える。

実際に、2024年度に国土交通省 都市局 公園緑地・景観課が行った³⁾「古都保存・歴史まちづくりの推進に関する検討調査業務」（以下、歴まち検討調査）では、自治体から「歴史的建造物に対する個人の理解不足で除却されてしまうことがある」という課題が挙がるなど、認知度の低さは、実際に歴史的建造物や歴史的な町並みの滅失に影響している。

また、形のない伝統的な風習や祭礼は、ことさらにその危険性にさらされてしまう。少子高齢化が急速に進んでいる多くの地域では、すでに後世への継承が問題となっている。⁴⁾静岡県掛川市の横須賀城下にて開催されている「ちいねり」という祭では、各町の中学生以下の子どもたちが中心となり、準備、運営を行っている。しかし、少子化により、すでに町の子どもたちだけでは人手が足りず、外部から助っ人を呼び、準備を行っている状態である。少子高齢化だけでなく、若者の都市部への流出も深刻であり、認知度の向上を図らなければ、将来の担い手不足により歴史ある伝統文化が失われる可能性が非常に高い、切迫した状況であることがわかる。

(2) 経済的負担

先述のとおり、歴史的価値のあるものでも、その知名度には大きな差がある。これにより生じるのが、経済的負担に起因する問題である。

文化財の保存には、修繕費や管理委託費など、多額のコストがかかる。歴史的建造物などを観光資源とし、すでに観光地として発展している自治体であれば、観光によって得られた利益を、文化財の保全、修復、活用にかかる費用に充てることができる。それに対して、歴史的価値が認知されておらず、観光客もさほど訪れないような文化財を擁する管理者にとって、この文化財を維持することの経済的負担は大きく、文化財の保全、修繕が進まない一つの要因になりうる。

実際に、歴まち検討調査においても、多くの市町が金銭的負担により歴史的建造物が滅失している現状を課題として挙げており、「改修・維持管理に際して所有者の金銭的負担が大きい」と回答した自治体は、100市町中44市町と、約半数が課題と認識している。所有者に保存の意思はあれど、その金銭的負担に耐えきれず、やむを得ない事情により建造物が除却されるなど、経済的な課題さえ解決できれば、守ることのできた建造物が失われてしまうというケースもある。

また、行政の財源不足も、歴史的建造物の修繕に大きく影響している。歴まち検討調査において、建造物の保全に要する費用が高額である上、それに伴う効果が見込めないため、事業が停滞していると回答する自治体もある。行政側の財政状況も歴史的な町並みの維持に大きな影響を及ぼす中で、十分に建造物の修繕がされていない建造物では、ますます老朽化が進行する結果となる。

3. 課題に対するアプローチ

以上の課題を解決する一助として重要なのは、人々に、ただ歴まち都市を訪れてもらうだけではなく、複数の歴まち都市を周遊してもらうことである。

特定の歴まち都市への観光を予定している人が、「歴まち」という共通項を通じて、他の認定都市に関心を持ち、「周辺の歴まち都市へも行ってみよう」と周遊してもらうことで、その歴史的資源に触れ、今まででは知り得なかった歴史的価値を知ることが、何より認知度の向上につながると考える。

また、それぞれの市町を周遊しながら観光してもらうことで、有料施設への入場や飲食店の利用などを通して、各市町に経済的効果をもたらすことができる。これは、建造物の修繕に必要な費用の一部となったり、保全により見込まれる効果を押し上げたりするなど、経済的負担の軽減にもつながると考える。

すでに観光地として賑わう歴まち都市に対して、歴史的資源が知られていないことや、来訪者を受け入れる体制が整っていないこと等が理由で来訪者が少ない歴まち都市にとっては、2. で示した課題は喫緊の問題である。しかし、地方の歴まち都市が単独でPR等の取り組みを行っても、その効果は小さい場合が多いと考えられる。

そこで、中部地方の歴まち都市の歴史的価値を統括的にアピールし、周遊を促すため、中部地方整備局が中心となり、観光連携事業を実施している。

(1) 観光連携事業の概要

中部管内の歴まち認定都市で構成される「中部歴まち協議会」では、2013年に「中部歴史まちづくりに関する合意書」を締結した。「それぞれの地域における観光交流の推進を図るため、相互に連携・協力」し、「①観光交流に関する情報の提供及び観光宣伝活動の実施」や「②観光交流に関する行事等の実施」に取り組むという合意に基づき、2014年から観光連携事業と題して、歴史的資源を観光へ活用する取り組みを行っている。2017年には、観光連携事業の一環として、全国で初めて「歴まちカード」（図-1）を発行。各歴まち都市の写真と情報を1枚に集約したカードは、各歴まち都市に行かなければ手に入らないということもあり、コレクターに人気の



図-1 歴まちカード（左：岡崎市、右：明和町）

カードとなった。中部から始まった歴まちカードは、現在では、全国で同様の取り組みが行われている。

その他、スタンプラリーや、フォトコンテストなど、各歴まち都市への周遊を促進するような様々な事業を実施してきた。

(2) 「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」の概要

様々な旅行会社から写真撮影をテーマとしたツアーが販売されるなど、旅先での写真撮影の需要が高いことに注目し、2024年度は写真に焦点をあてた事業を企画した。「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」と題し、各歴まち都市の重点区域内を撮影して画になるスポットの写真を、各都市の個別ページにまとめ、Webページとして公開した。(図-2)「担当」とは、各歴まち都市の担当者、つまり自治体職員を指し、各都市を知り尽くした担当者だからこそ知っている、魅力ある写真を募集した。



図-2 「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」トップページ。掲載している地図や写真のうち、好みのものをタップすると、各都市の個別ページ(図-3)にリンクする。

4. 課題解決のためのポイント

「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」を実施するにあたり、歴史的資源を、より効果的に観光に結びつけるために、以下の二つのポイントを軸に事業をおこなった。

(1) 周遊の動機付け

歴まち都市を周遊してもらうには、各都市を訪れてみたいと思わせる最初の動機付けが必要不可欠である。しかし、ただフォトスポットを紹介するだけでは、他のSNS等との差別化が図れず、それによる動機も弱いものであると考える。

そこで、各都市の担当に、写真を提供してもらうだけでなく、そのスポットでの撮影について、おすすめの季節や時間帯、撮影方法などに加え、実際に訪れて撮影をする際に必要な位置情報も提供してもらった。これにより、写真撮影に慣れていない人や、土地勘がない人でも、見栄えの良い写真を撮影することができる。このように、視覚情報だけでなく、文字情報としても、その都市を知り尽くした担当だからこそ知り得る情報や、説得力のある文章を記載することで、実際にその場所へ行き、写真を撮ってみたいという動機につながるよう工夫した。(図-3)



図-3 高山市の個別ページ。撮影におすすめの時間帯やポイント等も掲載している。

(2) 周遊を促す工夫

各都市を周遊する動機は重要であるが、動機付けを行うだけでは不十分であると考え。別の都市に行こうとする際に、面倒だと感じられてしまうと、「いつか訪れたい」という願望に終始してしまい、実際に周遊してもらえないからである。よって、周遊の準備に要するタイムパフォーマンスを高めることも、重要なポイントである。

a) 効率的な情報収集のためにできること

一般的に行動の妨げとなる主な要因として、コストや時間などが挙げられるが、本事業においてできることは、情報収集にかかる手間や時間的コストの削減であると考えた。関心を持った写真の場所へ訪れたいと思った際に、その場所の位置や、行くためにかかる時間、その経路については、誰もが知りたいと思うだろう。しかし、複数の都市にあるフォトスポットを巡るとなると、各市町のホームページや、観光情報サイト等を閲覧し、個別に情報を得る必要がある。これでは、情報収集に手間と時間がかかり、周遊へ結びつけることは難しいと考えられる。

そこで、情報提供に関して工夫を行った。

b) 具体的な取り組み内容

必要な情報の提供として、各スポットの位置や各スポットを巡る際の行程を簡単に閲覧、検索できるように、Googleマイマップを活用した。

Googleマイマップとは、Googleが提供する地図サービスのことであり、Googleマップとは異なり、自身のニーズに合わせて地点を追加したり、アイコンを設定したりすることで、自分だけの地図を作成することができる。これを活用し、各写真を撮影した正確なフォトスポットの位置を地点として追加し、独自のマイマップを作成した。(図-4)

これを、図-3の個別ページ下部に配置して、ユーザーがスムーズに検索できるようにした。



図-4 高山市のマイマップ。Googleマップに通常表示される施設と同様に、フォトスポットがアイコンにより表示されている。

c) マイマップによる解決方法

マイマップによる情報提供は、以下の三つの点において、効率的な情報収集に有効であると考え。

まず一つ目は、各フォトスポットの正確な位置を地図上で確認できることである。Webページ上で、一つずつのフォトスポットを眺めるだけでは、複数のフォトスポット間の具体的な距離や、周囲に何があるのかがわからないが、地図上で確認できることで、複数のスポットを巡る際の効率的な順番を考えることや、スポット周辺にある施設や店舗についても、すぐに確認することができる。これは、周遊のハードルの緩和に、非常に有効であると考え。

地図上で確認できるようにするため、各都市には、写真や掲載文章のほかに、撮影場所の地図上での正確な位置も提供いただいた。例えば、岐阜公園のような敷地の広い公園内にフォトスポットがある場合、地図アプリ等で検索しても、被写体である岐阜公園三重塔の位置のみが表示され、実際にどこから撮影されたのかわからない。そこで、マイマップに公園内の撮影位置をピンポイントで表示(図-5)することにより、どこから撮影すれば良いのかが分かる。また、各フォトスポットに、都市別に番号を割り振り、Webページの番号とマイマップ上の番号を対応させたため、誰でもすぐに、どこにどのスポットがあるのかがわかる。

二つ目は、必要な情報を得るための時間的コストが低いという点である。マイマップでアイコンをクリックすると、フォトスポットの詳細画面が表示される。(図-6)そして、経路検索のアイコンをクリックするだけで、Googleマップが開き、そのフォトスポットまでの現在地からの経路を検索することができる。(図-7)これにより、Webページに記載の撮影場所の住所を検索欄に入力するなどの手間を省くことができ、フォトスポットへの経路や、交通手段、所要時間が瞬時にわかるため、周遊のハードルの緩和につながると考える。



図-5 岐阜市のマイマップ。撮影場所の岐阜公園は広大であるが、マイマップを用いることで、詳細な位置を表示できる。

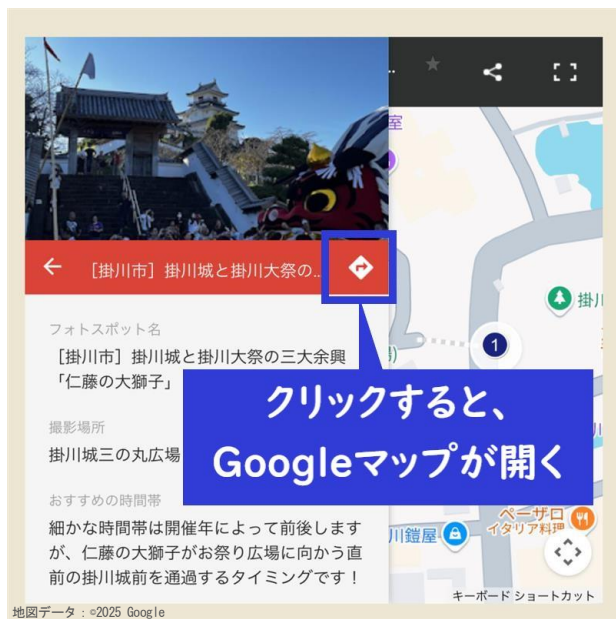


図-6 マイマップ上でのフォトスポットの詳細画面。各フォトスポットのアイコンをタップすると、マイマップ上でもWebページと同様の情報を確認することができる。



図-8 掛川市のマイマップ。歴まちロゴをアイコンに用いて、歴まちカードの配布場所を表示している。



図-7 フォトスポットへの経路検索の画面。Googleマップが開くと、自動的に現在地からの経路が検索される。出発時間を指定して検索することもできる。

三つ目は、他の事業でも有効活用できることである。図-4から図-7にあるように、マイマップには、フォトスポットの位置だけでなく、各市町の歴まちカードの配布場所も、歴まちのロゴマークを用いて地図上に表示している。(図-8) また、カードの配布時間や配布施設の定休日等、歴まちカードの収集に必要な情報についても記載したことで、歴まちカードを収集する際にも役立てることができる。コレクターの多い歴まちカードの情報も載せることで、カード収集とフォトスポット巡りの相乗効果が生まれることを期待している。

また、マイマップは、簡単な操作で編集することができるため、今後取り組む事業にも活用できる余白があり、将来的に、このマップ一つで複数の観光連携事業を楽しめるように更新することも可能である。

5. 今後の展望および期待する効果

(1) 展望 — フォトスポットの更新・追加

2025年度も継続して、各都市へ写真および掲載文章の提供を依頼している。季節ごとに開催される祭礼行事の様子を収められるスポットや、花や紅葉と歴史的な町並みを撮影できるスポットなど、四季折々の風景を収め、何度も歴まち都市へ訪れたいくなるようなページを作成していく。

また、掲載している情報には、掲載時に時期未定のものや、情報が古いものもあるため、定期的に情報の見直しを行って、常に新しい情報が得られるようにする。

さらに、観光連携事業の一環として運営している「中部歴まちInstagram」と連携した企画として、フォトコンテストの実施など、他の事業とも複合させながら活用していく。

(2) 歴まち都市を周遊する観光客の増加

この「担当イチ推し！歴まちフォトスポット」の目標は、歴まち都市への旅行等を計画してもらうことはもちろん、すでに一つの歴まち都市へ訪れる計画をしていた人が、訪れる予定になかった都市にも興味を持ち、複数都市を周遊するようになることである。その結果、歴まち都市における賑わいの創出や、関係人口の増加につながり、歴史的資源が多くの人に認知され、ひいては歴史的風致の維持向上につながることを期待している。

(3) 歴まち行政の認知度向上

この事業の主な目的は、歴まち都市への周遊の促進であるが、歴まち行政全体の認知度の向上も重要であると考えている。

歴史的側面からの自治体への支援を、国土交通省の地方支分部局で行っていることを知る人は、非常に少ないと感じる。今後も様々な取り組みを行っていく中で、その取り組みの効果が十分に発揮されるために、まずは国や自治体が一丸となって、歴史や伝統が残る環境を守ろうとしていることと、自治体への支援の存在を、より多くの人に知ってもらう必要があると考える。歴史的な町並みの維持には、地域の協力が不可欠だからである。

その中で、歴まちカードの発行により、全国のコレク

ターに歴まちが広がったことや、フォトコンテストにより、SNSユーザーに歴まちを知ってもらったことなど、観光連携事業は、歴まち行政の認知度向上に大きく貢献できると考える。国の支援の取り組みを、より親しみやすいものにすることで、その取り組みを通じて、地域が歴まち行政に関心を持ち、歴史的風致を身近に感じてもらい、ひいては地域における歴史的風致の維持向上につながることを望んでいる。

自治体と協力しながら、観光と連携した取り組みが、その一助となることを期待する。

謝辞：本論文の作成にあたり、多くの方々にご支援いただきました。ご多忙の中、快く事業にご協力いただいた、中部地方整備局管内の歴まち認定都市の皆様にご感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 株式会社ナビタイムジャパン：「訪日外国人旅行者が訪れる冬の人気急上昇エリアを分析 ～増加率ランキング 1位は愛知県犬山市。スキー、カニ、温泉など冬季ならではの体験に興味～」
- 2) 岐阜県高山市：「高山市歴史的風致維持向上計画（第三期）」
- 3) 国土交通省：令和6年度「古都保存・歴史まちづくりの推進に関する検討調査業務」
- 4) 静岡県掛川市：「掛川市歴史的風致維持向上計画」